

## 1 単元名 単位量あたりの大きさ

## 2 単元について

### (1) 教材観

児童は本単元の学習の前に、「平均とその利用」で単位量あたりの大きさの考え方につながる、数量をならして考える見方について学習した。第5学年では、「変化と関係」領域において、速さ、割合などについて理解するとともに、表やグラフに表すことなどについての技能を身につけられるようにする。本単元では、混みぐあいのように、異なる2つの数量の関係として表される単位量あたりの大きさについて知り、その考えを用いて、日常生活の中の問題を解決できるようにすることをねらいとしている。

### (2) 児童観

本学級の児童は、どの単元においても、課題解決に向けて粘り強く考えることができる。また、一通りの考えで解決できたとき、より効率的な方法でも解決できないかを進んで考えようとしている。一方で、自力解決が難しい児童が見受けられ、個に応じた支援が求められる。そこで、本単元では、タブレットを効果的に活用することで、ヒントカードで混みぐあいの比べ方についての手がかりをつかんだり、自分や友だちの考えを共有したりして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指したい。

### (3) 指導観

本時は、単位量あたりの大きさの求め方について考え、混みぐあいを比べられるようにすることをねらいとしている。導入時に、「混みぐあい」という単位のない量をスムーズに捉えられるよう、写真や図を使って、視覚的にイメージできるようにして、どうすれば比べられるかを考えるようにする。取り組み方がわからない児童には、1人あたりのカーペットの枚数に着目できるような図を提示したり、ロイロノートの共有機能により、友だちの考えを参考にしたりできるようにする。そして、自分なりの考えをもった上で、全体で話し合う活動を取り入れる。さらに、カーペットの枚数が同じであれば、混みぐあいを比べられることに立ち返ることで、1枚あたりの人数にも着目できるようにする。最終的に、2つの数量のどちらを単位としても比べられるという結論を導き出せるようにし、単位量が表す意味について理解を深めていく。

## 3 単元の目標

- (1) 単位量あたりの大きさの意味や求め方を理解し、単位量あたりの大きさを求めたり、それを使って混みぐあいを比べたりすることができる。
- (2) 2つの数量が関係していることに着目し、混みぐあいなどの比べ方を考え、単位量あたりの大きさを使って程度の大小を表したり、判断したりしている。
- (3) 単位量あたりの大きさに進んで関わり、振り返りを通して一方の量を単位として混みぐあいなどを判断することのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①単位量あたりの大きさについて理解している。</p> <p>②異種の2つの量の割合で捉えられる人口密度や、燃費などを比べたり表したりすることができる。</p>	<p>①日常生活の問題（活用問題）を、単位量あたりの大きさを活用して程度の大小を表したり、判断したりしている。</p>	<p>①単位量あたりの大きさを活用することの良さに気づき、生活や学習に生かそうとしている。</p>

#### 5 単元計画（5時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本 時	<p>単位量あたりの大きさを求めて、混みぐあいと比べることができる。</p> <p>・ 異種の2つの量のそれぞれを単位とした比較の仕方について考える。</p>	・ 知①（タブレット分析）		
2	<p>数量の関係をもとに単位とする方の量を決め、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。</p> <p>・ 異種の2つの量の一方を単位とした比較や、単位量あたりの大きさの意味について考える。</p>		・ 思①（ノート分析）	
3	<p>単位量あたりの大きさのよさに気づき、人口密度や燃費といった、よく用いられる単位量あたりの大きさについて知る。</p> <p>・ よく使われる単位量あたりの大きさについて調べる。</p>	・ 知②（ノート分析）		○ 態①（行動観察、ノート分析）
4	<p>学習内容の定着を確認し、理解を確実にすることができる。（章末問題）</p>	・ 知①②（ノート分析）		
5	<p>学習内容の定着を確認する。（評価テスト）</p>	○ 知①②（ペーパーテスト）	○ 思①（ペーパーテスト）	

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、記録に残す評価を行う機会には「○」を付けている。

## 6 本時の学習

### (1) 目標

単位数あたりの大きさを求めて、混みぐあい进行比较することができる。

### (2) 展開

学習活動	指導の手立て	具体的評価規準 (評価方法)
<p>1 いろいろな混みぐあいを比较を通して、学習のめあてをつかみ、解決方法や結果の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図から、「混みぐあい」の意味を視覚的に捉えられるようにする。</li> <li>・2つの数量に着目し、混みぐあいの比べ方について考えられるようにする。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">こみぐあいのくらべ方を考えよう。</div>		
<p>2 各自、混みぐあいの比べ方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の広さや人数が同じなら比べられることに気が付く。</li> <li>・部屋の広さや人数をそろえる方法について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えが停滞している児童に対しては、ヒントカードの活用により、部屋の広さや人数が同じなら比べられることに気が付き、そろえる方法について考えることができるようにする。</li> </ul>	
<p>3 混みぐあいの比べ方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人あたりの面積で比较する方法について検討する。</li> <li>・1枚あたりの人数で比较する方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体に、人数を単位数として揃えたときと、面積を単位数として揃えたときの違いについて問うことにより、どちらがより混んでいるかに気が付き、共有することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知①単位数あたりの大きさについて理解している。(タブレット分析)</li> </ul>
<p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の過程を振り返り、振り返りをタブレットに入力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、基準を1に揃えている場面について気付かせ、「1__あたりの○○=単位数」で比较することの良さについて気付けるようにする。</li> </ul>	

### (3) 評価する状況と具体的な支援

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数あたりの大きさについて計算し、その比べ方や表し方について理解を深めている。</li> </ul>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者がヒントカードを用いて可視化しながら考えられるようにすることで、問題場面の状況を把握し、比べ方を理解できるようにする。</li> </ul>